

指定したフォルダ内のすべての『SS7』データからSTBファイルを生成する

指定したフォルダ内の全ての物件データからST-Bridgeを生成します。

本プログラムの説明

このモジュールは『SS7 Op.Python実行』を活用していただくためのサンプルプログラムです。指定したフォルダ内にある『SS7』の物件データを洗い出し、ST-Bridgeに変換していくプログラムとなっています。このサンプルプログラムにより、『SS7 Op.Python実行』の使用方法として、

- ・『SS7』の物件データの基本的な扱い方
- ・『SS7』にコマンドを送信して動作させる方法
- ・『SS7』以外のプログラムを呼び出して連携する方法

を学ぶことができます。

また、複数の『SS7』物件データに対して連続的に何かの処理を行わせたいバッチ処理のための雛形としても活用いただけます。

本プログラムの実行方法

任意のフォルダ内に、本モジュールと『SS7 Op.Python実行』のモジュール群をコピーします。

例) C:\example\src に入れる場合

```
C:\example\src\  
├ AutoStbMakeer.py  
├ Python\  
│   ├── Ss7Python.pyd  
│   └ Ss7WrapCmd.dll
```

Python実行用コマンドプロンプトから以下のコマンドで実行します。

```
cd /d C:\example\src  
python AutoStbMaker.py C:\UsrData\Ss7data
```

注意事項

このプログラムは、指定されたフォルダに含まれるSS7物件データ内の結果フォルダの空きを1つ使用します。結果1から結果5まですべて残っている物件データには処理を行わずスキップします。

このプログラムは、『SS7 ST-Bridge OUT』を使用します。実行前にあらかじめライセンスを取得しておいてください。プログラムの118行目に『SS7 ST-Bridge OUT』の実行プログラムのフルパスを指定しています。

Ver.1.1.3.1の標準のインストール先を指定していますので、ご利用のバージョンや環境に応じて調整してください。

変換の対象となるSS7物件データは、インストールされている『SS7』の最も新しいバージョンのデータのみとしています。それよりも古い物件データもバージョン変換を行って対応する場合は、Open()関数の第2引数を3から1に変更してください。※バージョン変換された物件データは元のバージョンには戻せません。本プログラムは、『SS7』Ver.1.1.1.19で動作確認しています。

『Op.Python実行』の設定手順

Ss7Pythonライブラリを使用するための設定手順です。

1. 『SS7』を起動し、[ツール - 環境設定 - Op.Python実行]画面を表示します。
2. “利用可能なPython言語のバージョン”を選択し、[デスクトップへコピー]ボタンをクリックします。
3. デスクトップにある「Python」フォルダごと、AutoStbMaker.pyを入れたフォルダにコピーします。

必要な外部ライブラリ

本プログラムは、Pythonの標準の物のみを使用しており、『SS7 Op.Python実行』以外の外部ライブラリは使用しておりません。

著作者

Copyright (C) 2024 UNION SYSTEM Inc.

ライセンス

本プログラムは MIT License に基づいています。「LICENSE」を確認してください。